



ゴルフ

岩手わんこチーム
(選手代表)

かめざわ えいざぶるう
亀澤 榮三郎さん

75歳

●参加歴：1回目

仲間と挑んだねんりんピックの思い出

「東京都 A、鈴木〇〇さん…。まるで、プロゴルフのテレビ中継を観ているようなアナウンス。

10月20日9時32分、岐阜関カントリー倶楽部西コース1番ホール、20組目。「イワテケン、カメラザワ…。」ティーイングエリア後方の数段高い所で東京と盛岡から応援(?!)に駆けつけた家族が見守るなか、4人でのラウンドが定刻にスタートした。

その前々日には、三笠宮家の彬子さまご臨席のもと、長良川競技場で総合開会式が行われた。本来は2020年度に開催予定だったが、新型コロナウイルス感染拡大の影響で延期。翌年には中止決定となり、三度目の正直ということであった。

開会式では、主催者あいさつ、彬子さまのお言葉、選手宣誓、炬火点火に続き、いろいろな催し物が披露された。会場には小中学生の原面をもとにした横断幕がずらり。我が県は、さん

さ踊り、わんこそば、宮沢賢治を意識したであろう蒸気機関車等々。一番印象的だったのは、この夏、甲子園球場を大いに沸かせた岐阜商業高等学校の硬式野球部と応援部による大会参加者への応援エールであった。

開会式終了後、ふれあい広場を散策していると、そこでもあの応援をやっているではないか。周囲はすごい人だかり。岐阜県の高校野球(硬式、軟式どちらも)の強さの秘密は、この辺りにあるのかなと思った。

競技はほぼスルーで後半に進んだ。年間100回以上ラウンドする東京都のAさん、同じく120回以上の名古屋市のBさんはいずれも会社オーナーで、経営は後継者に任せているとのこと。所属クラブの女子選手として4人の枠の中に入りたくと活躍中のCさん。そんな話をしながら迎えた17番パー3でバーディー、最終18番はパー。結果を知ったのは帰りのバスの中で、最後の2ホールに助けられて個人戦は第5位。同組のCさんが教えてくれた。天候にも恵まれ、素晴らしいコースで、キャディーさんにもお世話になり本当に楽しいラウンドだった。

交歓会を終えバスに乗り込むと、窓の外では岐阜関カントリー倶楽部のスタッフの皆さんが横一列に並んで手を振ってくれていた。ああ、これが、「ねんりんピック岐阜2020～2025」だったのだなと。

最後に、岩手県代表の工藤篤雄さん、高橋好治さん、2025年6月2日の代表決定以来、そして、10月17日からの4泊5日、食事もゴルフもともにし、楽しい思い出をつくることができ、本当にありがとうございました。



総合開会式会場のモニュメントの前で。(右端)